

群馬県立中央中等教育学校学校評価一覧表②（平成30年度版）（様式2）

羅針盤			達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題	
評価対象	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合				
I 特色ある学校づくり に努めていますか。	1 豊かな人間性、想像力を育成する教育活動を行っていますか。	①自ら積極的にあいさつをしていると自己評価している生徒が90%以上である。	B	B	B	朝の挨拶運動を含め、職員自らの声かけ等、積極的に行っている。	社会に出ると学力だけではどうにもならず、バランスのとれた人間性が重要になる。その点で挨拶や清掃活動等の日常的なことを表裏なく出来るようにする指導は大切である。発覚しなければ何でもありといった昨今の風潮を助長させないためにも、小さなことと思わず、学校内でやるべきことをしっかりと続けさせ、生徒本人が自ら家庭でも清掃活動等に取り組めるレベルを目指してもらいたい。	・「心を開いて相手にせまる」という挨拶の持つ意味を理解し、より多くの声かけを行なっていく。 ・今後は家庭や地域での環境美化について、保護者に対して話題提供し、改善策を探りたい。 ・生活(学習)環境の整備推進と同時に本校生徒(現役生・卒業生)の頑張り、善行を積極的に紹介をして母校に誇りを持てるように努めていく。	
		②意欲的に清掃活動に取り組んでいると自己評価している生徒が85%以上である。	A	B	B	生徒の自己評価は高いが、保護者評価は低い。家庭における環境美化が課題である。難しい課題だ。			
		③自分の学校が好きだと感じている生徒が85%以上である。	A	A	A	奉仕活動等を通して生活(学習)環境を整備し、生徒が自身の可能性を広げることができる環境をつつていく。			
2 国際的なコミュニケーション能力を育成する教育活動を行っていますか。	2 国際的なコミュニケーション能力を育成する教育活動を行っていますか。	④英語や外国文化に興味を持っている生徒が90%以上である。	A	A	A	各習得段階において、教科書だけではなく、適切な題材を選び、スピーチやプレゼン、ディスカッション、ディベート、洋書や英字新聞を読む活動等を通して、英語・外国文化・世界情勢について、興味関心が深まっている。	5年生の英語による個人研究のプレゼンテーションの授業を参観したが、基礎期からの英語力向上、コミュニケーション能力向上を目指した取組が、成果をあげていることがわかる。国際情勢に不透明さが増してきた昨今において、こうした力の育成は重要であり、中央中等教育学校の特色としてさらに指導に力を入れてほしい。加えて、相手の発言を正しく把握した上で「質問力」の向上を今後の課題としてほしい。	本当の意味での国際コミュニケーション能力の育成に向けて、現実的な場面で即興的に表現出来る能力、グローバルスタンダードにかなう論理構成力、プレゼン能力、意思伝達力等の育成に、前期・後期通して一貫した目標を持たなければならない。また、新しい学習カリキュラムに対応した、各発達段階の具体的な目標を定めるべきである。	
		⑤イングリッシュキャンプやスピーチコンテストなどの英語科行事や、海外修学旅行に満足している生徒が85%以上である。	A	A	A	前期・後期を通じ英語関連の行事と関連づけた授業の中で、表現能力を向上させる活動をより多く行い、自らの考えを伝え合う力を養うことで、各行事に対する意欲をさらに高めることに努めている。			
		⑥全ての生徒が、学校行事や授業等で我が国や世界の国々の文化・伝統に触れる経験をしている。	A	A	A	本年度は日本伝統文化に関する全員参加の学校行事として、7月の芸術鑑賞教室で太鼓等をはじめとした地方の伝統文化を鑑賞、体験する機会を得た。			
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	4 基礎・基本の確実な理解を図る指導を徹底していますか。	⑦授業内容を理解できていると感じている生徒が80%以上である。	A	A	A	11月には、前期後期それぞれ1コマのアクティブラーニングの授業を、職員全員で参観するという校内研修を実施し、よりよい授業実践に向けて討議するとともに、外部講師(大学教授)によるアクティブラーニングの講義を受け、生徒一人一人の理解度が高まる授業にフィードバックを心がけた。	総合的な学習の時間、SGH等の発表の様子を見ても、課題を発見し、自らその解決に向けて資料を集め、それをもとに考察する力が、段階的に身に付いていることが見て取れる。これは日常的にすべての教科で取り組んでいるアクティブラーニング授業によるものであると思う。今後も「教科のSGH化」を目標に取り組んでいてもらいたい。SGH指定終了後の「FEWCプログラム」への取組にも期待している。	・アクティブラーニング授業をテーマとした校内研修と公開授業を継続し、生徒一人一人の学びに向かう姿勢を確かに捉える目を養うとともに、その変化に対応した授業改善を心がけるとともに、生徒の客観的な声を授業アンケート等を通じて正しく把握することで、その改善の質を向上させたい。	
		⑧少人数指導に満足している生徒が85%以上である。	A	A	A	少人数指導は、アクティブラーニング授業の実践にも大変効果的で、授業に取り組む生徒の生き生きとした姿を大切にして、生徒の充実感を高め、思考力の伸長に努めたい。			
		⑨学習動機が明確な生徒が85%以上である。	B	B	B	課題改善に向けて、職員研修会を実施し、生徒の学習動機を明確化させる方策のまとめができた。			・全ての生徒が自らの「思考力・判断力・表現力」を向上させる学習動機を明確にできる授業を実践する。
		⑩家庭学習の習慣が身に付いている生徒が80%以上である。	B	B	B	各教科・学年内で、生徒が自らの目標・力量に合わせて選択できる課題を検討し、そのまとめができた。			
		⑪すべての教師が、「言語活動の充実」「学び合い学習」「ICTの活用」等のテーマを設定し、授業改善に取り組んでいる。	A	A	A	年度当初に授業改善に係る研究テーマを設定し、研究テーマに沿った全体研修を年2回以上実施した。			
		⑫すべての教師が研究授業を年1回以上、授業参観を年2回以上実施している。	A	A	A	授業改善の一環として、全職員が、研究授業・授業参観を管理職による授業観察等と連携して実施した。			
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	7 生徒が良好な人間関係を築けるよう組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑬教師との信頼関係を築けていると感じている生徒が80%以上である。	A	A	A	全職員で生徒情報を共有して、それぞれの生徒に適切なタイミングで指導、支援を行なっている。	・すべては生徒の健全育成のために全職員で生徒情報を共有し、あらゆる場面で先手を打つ生徒指導を目指す。		
		⑭クラスの人間関係が良好だと感じている生徒が80%以上である。	A	A	A	人の数だけ価値観があることや他者を認めてあげることの重要性を伝えている。			
		⑮自分の健康について意識している生徒が80%以上である。	A	A	A	前年度と比較して保健室利用生徒減少、インフルエンザ発症生徒減少など、生徒の健康行動が高まったと考えられる。			
8 生徒は健全で健康的な学生生活を送っていますか。	8 生徒は健全で健康的な学生生活を送っていますか。	⑯部活動や委員会活動に取り組んでいる生徒が75%以上である。	A	A	A	部活動への取組は良好である。高学年になると部活動を辞める生徒が多いので、部活動の意義等も伝えていきたい。委員会活動については、生徒が主体となって活躍する場面をより増やしていきたい。	・歯予防備軍が増加傾向にあるため、口腔ケアに力を入れたい。 ・定着した3年生の夏休み前の部活動オリエンテーションが、各種大会等での目に見えた成果につながることを期待したい。また、部活動の意義やスポーツの楽しさ等も伝えたい。後期生徒の委員会活動の活性化に向けた手立てを考えたい。 ・いじめの定義、いじめ防止対策推進法について周知徹底し、いじめは「人の尊厳にかかわること」「人として絶対に許されない」「被害者は最後まで守りぬく」という基本姿勢を持ち、職員の抱え込みのないよう生徒の情報共有を更に徹底していく。		
		⑰いじめの発生防止に努め、いじめの解消率が100%である。	A	A	A	いじめの定義、いじめ防止対策推進法について周知徹底し、職員の抱え込みのないよう生徒の情報共有を徹底している。			
		⑱前中期課程＞自分の特性と将来の職業とについて関連付けている生徒が70%以上である。	B	A	B	進路講演会を実施し、保護者とともに自分の進路を考える機会を提供した。			
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	9 各学年の特性に応じた計画的な進路指導を行っていますか。	⑲後期課程＞自分の特性と将来の職業とについて関連付けている生徒が80%以上である。	A	A	A	進路講演会を実施し、保護者とともに自分の進路を考える機会を提供した。	前期(中学生)の保護者のキャリア教育への要望を取り入れ、本年度より始めたインターンシップ活動や卒業生と連携をはかったキャリア教育(フスビリティ/自己啓発セミナー)を軌道に乗せ、基礎期からのキャリア意識の啓発に積極的に取り組んでほしい。	・キャリア教育については、SGH諸活動にビルト・インする形で実施し、成果をあげてきた。その中での継承可能な遺産を吟味したい。同時に、新学習指導要領をふまえたカリキュラム・マネジメントの構築に着手する。具体的には、大学と連携したアカデミック・インターンシップ等が考えられる。	
		⑳子ども進路希望を理解している保護者が85%以上である。	B	A	B	三者面談にあたって、適性検査等のデータを活用した。			
		⑳学校からの進路情報提供に満足している生徒・保護者が80%以上である。	A	A	A	PTA進路学習会を実施し、本校生徒にとって必要な進路情報を発信した。			
10 生徒が将来の進路を選択するのに役立つ適切な情報や場を提供していますか。	10 生徒が将来の進路を選択するのに役立つ適切な情報や場を提供していますか。	㉑進路講演会や進路関連行事を各学年、年2回以上開催する。	A	A	A	生徒の発達段階にあわせ、各学年のニーズに応じた行事を行った。	本校を取り巻く環境への懸念、具体的には県人口少子化等を踏まえながら、高大連携に伴う大学入試改革や新しい学習指導要領等への対応等、関心の高い保護者に対しても、情報をタイムリーに発信していただいたい。	・進路関係の諸行事については、スクラップ&ビルドの考え方を基本として、その精選を継続する。また、進路情報については、各学年の進路環境に応じた最新の情報を、引き続き提供する。	
		㉒Webページを月3回以上更新する。	A	A	A	各種学校行事の様子を画像等を使用しタイムリーに提供したり、一人一人の先生方の授業の様子を公開する等、日記(ブログ形式の記事)、入試情報等の積極的な更新を心がけた。			
		㉓学校説明会や公開授業、授業参観をそれぞれ年1回以上実施する。	A	A	A	関係部署との連携のもと、円滑な行事の運営に努めたが、天候に関わる駐車場の混雑の問題等、すぐには改善できない問題点がある。			
V 開かれた学校づくり に努めていますか。	11 積極的な情報発信に努めていますか。	㉔学校と家庭との連絡が緊密に行われていると感じている保護者が80%以上である。	A	A	A	文書や一斉メール等を利用して適切な情報伝達に努めた。	学校の特色上、地域貢献活動はやりにくい面もあると思うが、グローバルな視点のもとになる地域をはじめとした自分の足下を見つめる力を身に付けさせるためにも、地域を巻き込める効果的な活動を考えてほしい。	・副校長が中心となり、Webページのタイムリーな更新を心がけるとともに、スマートフォン等の端末でも見やすいHP画面を提供していく。今年度から導入した「学校評価アンケート」のWebでの解答も継続していく。 ・オープンスクールの実施日、特に曜日を変更する等の改善を加え、保護者、志願者、県民、地域の住民等が来校しやすい環境を整えたい。	
		㉕学校は、生徒・保護者による地域貢献活動を年1回以上行っている。	A	A	A	例年2回の実施を継続してきたが、2回目は健康増進活動において、地域貢献活動は昨年度に続き春に1回だけとした。			
VI 生徒の安全確保を 図っていますか。	12 保護者や地域等との連携・協力に努めていますか。	㉖学校と家庭との連絡が緊密に行われていると感じている保護者が80%以上である。	A	A	A	文書や一斉メール等を利用して適切な情報伝達に努めた。	学校の特色上、地域貢献活動はやりにくい面もあると思うが、グローバルな視点のもとになる地域をはじめとした自分の足下を見つめる力を身に付けさせるためにも、地域を巻き込める効果的な活動を考えてほしい。	・一斉メールの適時利用について引き続き努めていきたい。 ・PTA広報誌は保護者にとって必要な情報をより選りすぐり紙面の刷新なども検討しながら提供したい。 ・地域貢献活動については活動実態の周知が進んだと考えるが、さらに継続的に努力したい。	
		13 生徒の安全に対する意識喚起に努めていますか。	㉗交通安全教室を年1回、防災訓練を年2回実施する。	A	A	A			命を守るための指導を行なった。
14 施設・設備の安全管理を徹底していますか。	14 施設・設備の安全管理を徹底していますか。	㉘学校の施設・設備が整備され、安全であると感じている生徒・保護者が80%以上である。	A	A	A	点検はしっかり行われた。問題点は指摘された直後に概ね解決されたが、多額を要するものについては未解決もある。	生徒指導は命に直結する指導であることを意識し、データを集約し、その分析結果をもとに指導に工夫を加えている点が評価できる。交通事故減少に向けて成果が出ることを期待している。 安全確保のために点検活動をしっかりと継続するとともに、予算面の要請も諦めずに続けてほしい。	交通事故、災害は命に直結することを念頭に、各種指導を行なっていく。何よりも守るべきものは命であることをより生徒が実感できる内容にしていこう。 生徒や保護者からの要望が多い照明整備、防球フェンスなどを重点項目として、より安全な環境作りを努めたい。	